

第二百二十一話 大西洋憲章と大東亜宣言

夙に知られた第二次世界大戦後の国際社会の理念を規定した大西洋憲章と、知られざる日本が主導した和平メッセージ大東亜宣言を対比してみるのも参考になる。敗戦したが故に余り顧みられることのない「大東亜宣言」には如何なる意味があるのだろうか？

1 大西洋憲章

米のル大統領と英チャーチル首相は独のソ連侵攻後の1941年8月、大西洋上で会談し、後に大西洋憲章としてまとめられる内容を協議した。8つの主要条項があった。・アメリカとイギリスは領土拡大を求めないこと ・領土の変更は、関係国の国民の意思に反して領土を変更しないこと ・民族自決 ・貿易障壁の引下 ・全ての人によりよい経済・社会状況を確保するために世界的に協力すること ・恐怖と欠乏からの自由の必要性 ・海洋の自由の必要性 ・侵略国の軍縮と戦後の共同軍縮を行うこと。等である。



2 大東亜宣言（大東亜共同宣言）

日、満、華、泰、暹、比の共栄圏の結合理念を具現するものは、大東亜省であり、大東亜機構であり、その理念を明確にするための大東亜宣言が重光外相の精力的行動によって種々検討された。原案では、○他国の干渉、支配、独占、搾取よりの開放、○自主独立、領土の尊重、互惠平等 ○共同防衛 ○資源の開発・利用の開放、○不脅威・不侵略の原則に基づき紛争の平和的処理等が高らかに謳われていた。大西洋憲章以上に高い理想が盛り込まれたといっても過言ではない。重光の理想は、陸・海軍や他省庁の意見により修正を余儀なくされ、1943年（昭和18年）11月6日に大東亜会議にて採択された。前記6ヶ国の他にインドのチャンドラ・ボースがオブザーバー参加した。

大東亜の各国は、互いに提携して大東亜戦争を戦い抜き、大東亜諸国を米英の手枷足枷から解放し、その自存自衛を確保し、次の綱領にもとづいて大東亜を建設し、これによって世界の平和の確立に寄与することを期待しています。

○大東亜各国は、協同して大東亜の安定を確保し、道義に基づく共存共栄の秩序を建設します。

○大東亜各国は、相互に自主独立を尊重し、互いに仲よく助け合って、大東亜の親睦を確立します。

○大東亜各国は、相互にその伝統を尊重し、各民族の創造性を伸ばし、大東亜の文化を高めます。

○大東亜各国は、互惠のもとに緊密に提携し、その経済発展を図り、大東亜の繁栄を増進します。

○大東亜各国は、すべての国との交流を深め、人種差別を撤廃し、広く文化を交流し、すすんで資源を開放し、これによって世界の発展に貢献します。

この宣言が大西洋憲章を意識していることは事実だが、この理念に基づき、幾つかの国が独立を果たし、宣言が実現されたのは評価できよう。が、各国平等の大東亜機構構想は否定され、日暹(1943/8)及び日比同盟条約(1943/10)の内容は重光にとっては不十分なものであった。これより以前に宣言と同じような理念のもとに締結された日華同盟条約(1940/11/30、不平等条約破棄)にも注目したい。これらの理念については、時期尚早論があり、日本の覇権的地位のありようについても議論された。

3 意義

日本にとっての戦争の意義を世界に周知するかは極めて重要な課題であり、ここに一つの回答がある。本来ならば開戦前に大義を示すべきであった。が、遅かりしとは云え、日本の努力は認めるべきだろう。大東亜宣言に想いを馳せることは、今日的な意味があると思えるのだが・・・ (了)